

東京市場で事業拡大

足立区竹の塚に新規出店

中央ビル管理

ポラスグループで賃貸住宅管理などを手掛ける中央ビル管理は東京での事業を拡大する。このほど都内2店舗目となる営業所を足立区竹の塚に出店した。大学移転などで人口流入が見込まれる同地区を強化する。今後も東武伊勢崎線沿線を中心に店舗出店を続ける。



三ヶ原 所長

中央ビル管理は埼玉県000戸、千葉3700戸、越谷市を中心に2万1600戸を管理する。内訳は東武伊勢崎線沿線900戸、さいたま地区800戸、

000戸、千葉3700戸など。ポラスグループが拠点とする埼玉県に加えて東京エリアを強化している。同社も2004年に足立区北千住に都内初となる店舗を出店した。12年の東京電機大学移転や4社5路線が乗り入れて人気がある賃貸仲介激戦区の北千住で実績を上げたことから、竹の塚に出店した。

竹の塚は東京メトロ日比谷線始発駅で人気があることに加え、20年に文教大学が新キャンパス開設を予定しており人口流入が見込まれる。賃料相場は1Kが6万円前後で2DKが8万円前後。出店から1カ月が経ち三ヶ原隆史所長は「沿線で分譲を手掛けているためポラスの知名度は高い。年明けから始まる春繁忙期に向け、さらなる集客に励みたい」と話す。営業所周辺では800戸を管理しており、入居率は93%ほどとなっている。管理委託のほか築10〜20年物件のサブリースも手掛けている。現在は北千住営業所と草加営業

所の補完的役割だが、将来は基幹拠点化を目指す。今後も都内での出店を続けたい考えだが、出店に適した物件がなく次の予定は立っていない。